

CHIHOMEN NEWS

Vol. 87

令和4年2月18日 近畿財務局大津財務事務所



企画背景

大津財務事務所ではこれまでも、地方創生の柱に自転車を軸とした観光振興を掲げ「ピワイチ」などの各種取組を進める守山市と連携を深めてきたところです。そのような中で、琵琶湖が自転車を軸とした「アドベンチャーツーリズムの発着地」として国内外から認知され、持続可能な観光誘客と地域活性化につながるよう、地域全体での受入環境整備と機運醸成を目的として本シンポジウムを開催することとなりました。



(※アドベンチャーツーリズムとは)
「アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行」のこと。

引用元：一般社団法人日本アドベンチャーツーリズム協議会

企画ポイント

- 👉 大津財務事務所がもつネットワーク機能を活用し、国の機関や県内企業、団体から幅広いメンバーが出席
- 👉 経済学者、自転車大使、学生といった多様な視点から琵琶湖を活かしたアドベンチャーツーリズムに係る観光振興をディスカッション

開会挨拶



主催者として、**守山市の宮本市長**から、市としての取組のほか、「琵琶湖は自転車だけではなく多くの魅力を秘めている。それらの魅力を繋ぎ合わせて、ありとあらゆる活用を生むという意味でアドベンチャーツーリズムを推進していきたい」という今後の想いをお話いただきました。

共催者として、**大津財務事務所の谷上所長**から、「アドベンチャーツーリズムに必要な要素が揃った滋賀県で観光振興に取り組めば、国内で先進県になれるのではと大きく期待をしているところ。本シンポジウムが地域全体での受入環境整備と機運の醸成に繋がれば幸い」と挨拶しました。



主催：守山市
共催：近畿財務局大津財務事務所
後援：近畿運輸局、滋賀県
(公社)びわこビジターズビューロー
守山商工会議所、守山市観光物産協会
守山湖岸振興会、淡海を守る釣り人の会
協力：マザーレイクゴールズ推進委員会
運営：(株)ARCH、(株)COMARS
一般社団法人インパクトラボ

第一部 基調講演



第一部では、(株)日本総合研究所の藻谷浩介氏から、『琵琶湖とアドベンチャーツーリズム』をテーマに基調講演を実施していただきました。

【講演の主なポイント】

- ・関西圏の生活を支える琵琶湖は水質も良い上に、湖上スポーツも楽しめるという点で**奇跡の場所**
- ・住む人が堂々と「住む理由」を説明できる町が元気になる、**滋賀に住み続ける理由を高めていく最短の方法は琵琶湖に親しむこと**
- ・琵琶湖には**五感の全てで都心で味わえない良さがあり、特に触覚が重要**で自然に触れて全身の肌感覚を活性化させることが大事

講師：

(株)日本総合研究所 主席研究員 藻谷 浩介 氏

山口県生まれの57歳。平成合併前の全3,200市町村、海外114ヶ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し研究・著作・講演を行う。2012年より現職。著書にデフレの正体、里山資本主義(共にKADOKAWA)、世界まちかど地政学Next(文芸春秋)など。近著(共著)に進化する里山資本主義(Japan Times)、東京脱出論(ブックマン社)。

第二部 パネルディスカッション



第二部では、守山市で自転車特命大使を務める3名(三船雅彦氏、高橋幸博氏、田中信行氏)から「世界に発信する琵琶湖アドベンチャーツーリズムの視点と発想とは」をテーマにパネルディスカッションを実施しました。サイクリストや自転車製造といったそれぞれの立場から様々な考えを述べられ、藻谷氏や参加者からも多数質問が寄せられるなど、会場は大いに盛り上がりました。

第三部 ショートプレゼン



第三部では、琵琶湖版SDGsであるMLGs(マザーレイクゴールズ)の取組を推進する大学生(立命館大学 畠麻里奈氏)から、学生という若者目線で琵琶湖の魅力を示短プレゼンしました。

閉会挨拶



会の終わりには滋賀県商工会議所連合会会長の**大道良夫氏**から、「参加機関それぞれの役割・使命は異なるものの、引き続き、滋賀県の観光振興に関して連合会としても各機関と連携して推進していきたい」とのお話がありました。

終わりに



大津財務事務所では、今後も地方創生、地域活性化のために、関係機関と連携し、様々な形で取り組んでまいります。



本シンポジウムの模様を動画でも閲覧いただけます。

○ショートバージョン(約3分)

<https://www.youtube.com/watch?v=4KCQPs4MX1M>

○フルバージョン(約3時間)

<https://www.youtube.com/watch?v=Et-hwygxR70>

